

令和5年第1回目は、今年の十二支の卯年にちなんでウサギに関係した話をしたいと思います。

古墳の周りに多くの埴輪が並んでいることをご存じの方は多いと思います。古墳には土管のような形の円筒埴輪が最も多く並んでいます。他には鶏や馬、人物、家など様々な埴輪があり、当時の身近なものや首長の儀式などを表しています。この中で、ウサギの形をしている埴輪が関東地方に少ないながらもあります。月にウサギが住んでいるという説話や神話「因幡の白兔」があるように、古来よりウサギは身近なものと思われ

ます。また、藤井寺市にはウサギの名前が付いた古墳があります。近鉄南大阪線土師ノ里駅の北東側にある、允恭天皇陵(市野山)古墳の北東部には「兎塚」という字名が残っています。字名というのは昔から続く村の区画の単位の名前です。兎塚と名前があ

るのは昔からこのあたりにウサギが多かったのか、「塚」とつくようにここには古墳があり、こんもりとしている姿がウサギに似ていたのかはわかりませんが、昔から「兎塚」と呼ばれていたのでしょうか。

平成18(2006)年に、この付近に住宅開発の波が寄せてきて発掘調査を実施し、新たに兎塚と兎塚2号墳の2基の古墳が見つかりました。

大きい方の古墳は、直径36mの円墳に造出し(墳丘に取り付く方形のお祀りをする場所)が付く墳丘の長さ43mの帆立貝形古墳です。濠からは多くの萱石(墳丘に葺かれた川原石)の転落石や埴輪が多く出土しました。造出し東側には当時の状態の葦石も残っていました。埴輪の特徴から5世紀後半に造られた古墳で、允恭天皇陵(市野山)古墳の陪塚と考えられます。

兎塚古墳の堤にはいくつかの墓が見つかっています。円筒埴輪と盾形埴輪、衣蓋形埴輪を棺材に使った埴輪円筒棺や短辺側に河原石を置いた木棺墓も見つかりました。これらは兎塚の周りに造られた古墳と考えられます。

古市古墳群の動物を冠する古墳1 兎塚古墳

古墳の中には地名や形、伝承、人物名から名前がとられた古墳があります。藤井寺市内にはたくさん古墳がありますが、兎塚古墳以外にも動物の名前を冠した古墳がありません。

次からはこれらのように動物を冠した古墳について話していきたいと思えます。

(文化財保護課 上田 睦)

